

姉妹都市提携 70 周年記念セントポール市公式訪問報告

長崎市議会議員 井上重久

8月 21 日出発、セントポール市の概要、目的、姉妹都市提携の経緯等

長崎市公式訪問団（9名）は、8月 21 日（木）から 26 日（火）まで、機内 2 泊、ホテル 4 泊の日程で米国ミネソタ州セントポール市を訪問した。8月 21 日 16 時 20 分羽田空港発、セントポール空港には現地時間 14 時前後に空港に到着（日本との時間差は 14 時間遅れている）、18 時にホテルを出発してセントポール・長崎市姉妹都市委員会主催による個人宅での夕食交流会に招かれ、和太鼓のおもてなしを受けた。

セントポール市の概要は、製造、通信、金融、保険、観光、農業等が盛んな都市で、隣接するミネアポリス市とは、ミシシッピをはさんで双生児のように発達したことから「双子都市（ツインシティ）」と呼ばれている。15,000 に及ぶ数多くの湖と川、緑豊かな町で、気候は大陸的気候で雨量が少なく、寒暑の差は大きいと紹介されていた。



公式訪問の概要は、日米初の都市間提携であるセントポール市と姉妹都市提携 70 周年を迎えることから、訪問団を派遣し記念行事などに出席、今後の関係強化を図り交流促進に繋げるとしている。主な行事は、ロータリークラブ・姉妹都市委員会主催歓迎夕食会、セントポール市長表敬訪問などとなっている。姉妹都市提携の経緯は、ニューヨークの日本国連協会代表が、原爆被災から復興し平和都市への道を歩んでいた長崎市とセントポール市の提携を斡旋。

その後、国連事務局が両市に勧誘状を出し、日本初の姉妹都市提携となっている。昭和 30 年（1955 年）12 月 7 日提携、セントポール市面積 145K m²、人口約 30 万人。長崎市は面積 405.8 k m²、人口約 38 万人。

今回の公式訪問団の他に、長崎市内在住中学生 16 人他 4 人が参加する「子どもゆめ体験」、長崎ロータリークラブ 13 人が参加した。ちなみに、長崎市の姉妹都市は、セントポール市（アメリカ）、サントス市（ブラジル）、ポルト市（ポルトガル）、福州市（中国）、ヴォスロール市（フランス）、ライデン市（オランダ）と提携している。

8月22日市長・議長表敬訪問、国指定歴史的史跡視察

8月22日(金)9時30分からメルヴィン・カーター市長、レベッカ・ノッカー市議会議長を表敬訪問し、意見交換を行った。長崎市の訪問団は、市公式訪問団9人、長崎ロータリークラブ4人、子ども夢体験20人と、姉妹都市委員会メンバーら合計すると38名前後が市長室の応接室で、交流の関係強化や平和活動に向けての意見交換、記念品の贈呈が行われた。



セントポール市庁舎には、2012年(平成24年)にセントポール・長崎両ロータリークラブから長崎市に寄贈された「平和のビジョン」像(長崎市平野町に設置)の原像を拝見した。また、午後からは三権分立(立法・行政・司法)の要であるミネソタ州議事堂を視察、アメリカを代表する建築家キャス・ギルバートがバチカン市立国にあるサン・ピエトロ大聖堂をモデルに設計した建物。1896年竣工、1905年に完成、支柱なしの大理石のドームを有する建物はこの議事堂以外に、世界でも数えるほどしかしかないという。1972年、議事堂は国指定歴史的史跡に登録された。

併せて、1915年にアイルランドのジョン大司教によって建設されたセントポール大聖堂、1906年に建築が始まり、1915年に完成、高さ53メートルの巨大なドーム、1974年国指定歴史的史跡に登録された。



8月23日平和イベント、日本庭園視察、公式夕食会

8月23日午前10時からセントポール市のダウンタウンに建つ、ミネソタ歴史センター(ヒストリーセンター)において鈴木市長の講演、子どもゆめ体験被爆紙芝居披露、原爆ポスター展、キッズゲルニカ展示の平和イベントに参加した。鈴木市長の講

演概要は、80 年前の広島・長崎の一発の原子爆弾投下は、非人道的なものであった。父母の被爆の状況、かろうじて生き残った被爆者の皆さんのが肉体的な苦痛、差別や偏見などの精神的な苦痛を味わい、痛ましい体験を語り、核兵器のない世界の実現を訴え続けてきた。日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞した。被爆の実相を伝えるための準備、原爆資料館展示内容の見直し、平和を発信する人材育成、平和の文化の醸成についてなどの講話があった。

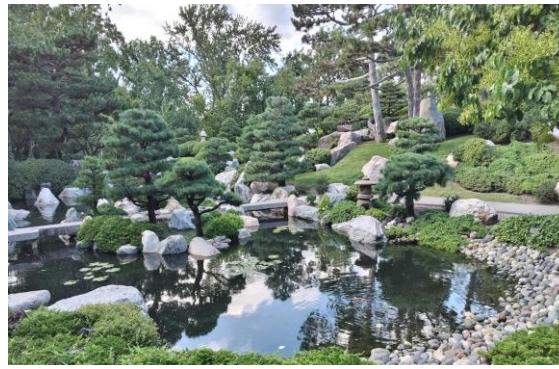


次に、田川博康さんの被爆体験記「あの日 8 月 9 日そして、これから」を紙芝居形式で、子ども夢体験者 16 人による英語スピーチがあった。被爆体験者は、当時、新興善国民学校の 6 年生、轟音とともに目の前がだいだい色に染まり、爆風とともに小さなガラス片や、ふすまや障子などが飛んできた。爆発の数時間後には黒い煙が上がり、黒い煙の中に太陽が見える異様さであった。浦上の消滅の話、両親を助けにいかなければの思い、交通機関の壊滅、自分の家族を助けるために必死で歩いた。怪我を負った父親を臨時救護所で治療してもらったが、3 日後に息を引き取り、悲しいとか辛いという思いを感じる余裕さえなく、そして母親も数日後になくなった。原爆の放射線の影響からか、若い頃から身体のあちらこちらに異常が現れ、手術で入退院を繰り返してきた、80 年前の被爆実相が語られた。



8 月 23 日午後からの日本庭園視察＆コモ公園を視察した。ミネソタ州セントポール市のコモ公園は、307 ヘクタールという広大な土地にゴルフ場、キャンプ場、動物園や有名な温室の植物園（マジョリー・マクニーリー温室）などがある。来場者数は年間 190 万人、1915 年（大正 4 年）11 月 7 日にマジョリー・マクニーリー温室がオープンしてから今年で 110 周年を迎えるという。公園内の日本庭園は、樹木医松田正美氏の指導の下、設計・建築をし、1979 年（昭和 54 年）9 月に開設され、

10 年前の 2015 年には松田さんを偲ぶ松田記念碑の除幕が行われた。日本庭園は、セントポールの姉妹都市、長崎市と連携して開発され、毎年 8 月にはフェスティバルも開催されている。



8 月 23 日（土）18 時 30 分からコモ公園内にある施設においてセントポール市関係者、姉妹都市委員会、ロータリークラブ、在シカゴ総領事館主席領事、在ミネソタ日本名誉理事など出席して「公式夕食会」が開かれた。訪問団の参加者は、長崎市公式訪問団 9 人、長崎ロータリークラブ 9 人、子どもゆめ体験引率 4 人が参加して意見交流を図った。姉妹都市委員会の会長、鈴木市長より「長崎とセントポール市の姉妹都市 70 周年を祝い、友好と交流が今まで引き継がれていること。原爆による実相を後世に繋ぎ核兵器の廃絶を願うなど」それぞれの立場から感謝とお礼の言葉が述べられた。夕食の料理はチキンがメインで、全て食べられず若干残してしまった。



8 月 24 日ステートフェア、送別会

8 月 24 日（日）9 時ホテル発、ステートフェアの視察を行った。ステートフェアは、1859 年から始まりミネアポリスから 14 km 離れたファルコンハイツが会場となっている。現在は、食べ物中心のフェアであるが、トラクターやコンバインに乗り込んでの体験ができる。8 月下旬から概ね 10 日間開催されるため、パレード行進に参加、広大な土地に人の群れ、フェア期間中に 190 万人が訪れるという。

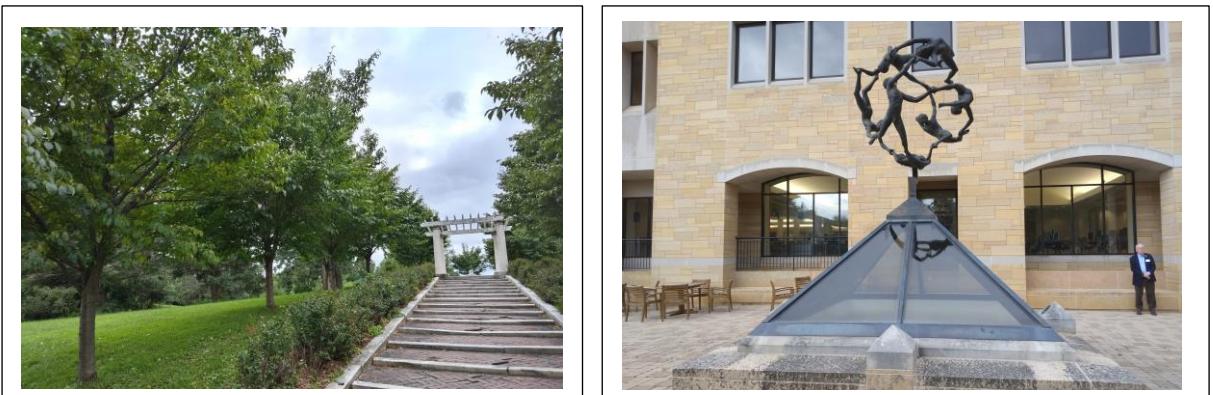
スリルを味わうなら、高さ 15 フィートのファイバーグラス性の滑り台、ジャイアントスライド、スカイタワーに登ればミネアポリスの市街地が見渡せる。何かに挑戦したいなら、賞をめざしてカーニバルゲームで腕試しが出来るとか。会場のいたるところ

るに、無料のコンサートやショーのステージが設けられており、エンターテインメントが繰り広げられていた。また、500 以上ものさまざまな種類の食べ物が並び、ピッツアリト（ピッツアの具を巻いたブリトー）やメンフィスタコス（バナナの薄切りとピーナッツ・バター・ソースのティタートッツ）などの屋台メニュー、甘い綿菓子や揚げたてのコーンドッグのような一般的な食べ物もあった。私たちも焼トウモロコシ・ワニ肉のソーセージを買って、ビアホールのエリアで地ビールを堪能した。



姉妹都市のおもてなしに感謝！

姉妹都市提携 70 周年を記念しての公式訪問の日程を終え、ロータリークラブ・姉妹都市委員会のメンバー、セントポール市役所関係者らの、おもてなしを強く感じた訪問となった。このおもてなしの背景は、原爆被災から復興し平和都市の道を歩んでいた長崎市とセントポール市が 1955 年(昭和 30 年)12 月 7 日、日本初めての姉妹都市提携が実現したことによるもの。1957 年長崎市から贈られた桜の苗木の記念植樹、1975 年セントポール・長崎両ロータリークラブが交換留学生を受入・派遣、共楽園社長松田正美氏(東長崎)コモ公園日本庭園整備協力、1992 年セントポール市が平和公園へ平和モニュメント地球星座を寄贈、1998 年(平成 10 年)コンサート交流等を通じてセントポール市シビック・シンフォニー一行などが来崎、1999 年長崎・セントポール姉妹都市委員会発足、民間団体の姉妹提携もあり交流が続いている。



70 年の交流を経て、公式訪問団日程の中で 8 月 21 日姉妹都市委員会主催による個人宅での夕食交流会、和太鼓のおもてなしに感激した。個人宅の庭園には長崎市の市花「あじさい」が植樹されていた。8 月 23 日平和イベント式典において交換留学生 2

名が平和式典やピースフォーラムなどに参加した感想を述べた。午後からは、公式日程には入っていないスポーツ施設の視察、その道中にある姉妹都市委員会メンバーの個人宅での昼食のおもてなし。そしてタイトな中で、スポーツ施設に移動、サッカ一場 50 面、スケートリンク 4 面、バスケットボール施設、ゴルフ場施設などの規模にアット驚きながら、ゴルフ場にあるカートで移動視察した。8 月 24 日の送別会(軽い夕食)など、長崎と交流ある姉妹都市委員会のメンバーと交流が深められた。姉妹都市関係者の皆様、現地では「おもてなし」を賜り、大変お世話になりました。感謝！

